

津田左右吉物語

第28回

左右吉をとりまく人々

(南原繁・元東京大学総長)

南原氏と左右吉との
深いかかわりは「津田
事件」でした。

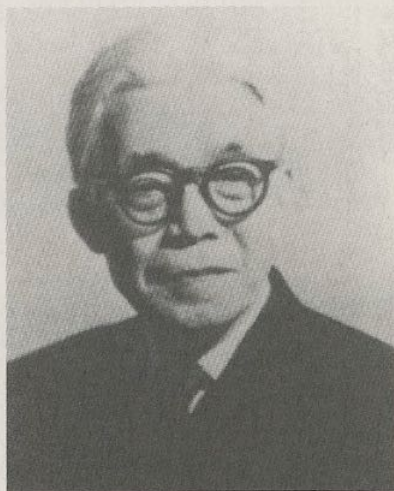
昭和14年東京大学法
学部「東洋政治思想
史」の講座が新設され
ました。当時法学部長

の南原教授は、左右吉に白羽の矢を立て、何度
か左右吉の自宅を訪れて、講師になる承諾を得
ました。

左右吉の東京大学への出講によって極端な国
粹主義者の攻撃が始まり、左右吉の研究著書4
冊が発禁となりました。起訴、予審を経て、「皇
室の尊厳をぼうとくした」という罪で、左右吉
は裁判を受けることになったのです。

公判中に、南原教授が中心となって「上申書」
を作成し、裁判所に提出しました。左右吉の無
罪を信じる89名の学者が「上申書」に署名をし
ました。しかし、この事件そのものが免訴とな
ってしまっただのです。

後年、南原氏は「(津田)博
士にご迷惑をかけたことをい
まも心の重い目と感じている。
…博士の研究は、そもそも出
版法などに触れる問題ではな
い。…研究の関心は日本の国
民思想史にあった。」と述べ
ています。



▶南原 繁 教授